

1 単元名 ホワイト島の〇〇さん

2 目標 ・全体や部分の形を考えて 想いに合った顔をつくることができる  
 ・発泡スチロールを想いに合った形に切ったり接合したりできる

3 指導にあたって

本単元の基礎・基本について

梱包の緩衝材や食品の簡易皿など、身の回りには発泡スチロール（ポリスチレン）が多く使われ、子どもも頻繁に見たり触ったりしている。しかし、それらは用が済めばすぐ廃棄され、子どもが材料に使って何かをつくることは日常ほとんどない。このように生活の中では捨てられる発泡スチロールだが、軽く柔らかい独特の質によって、造形材としての使い道は様々にある。

本単元は、この発泡スチロールを主な材料として使い、一人の「ホワイト島の住人」を想像してその人の頭部を表現するものである。材料は白一色であるが、帽子、ひげなど頭部に見られる様々な部分と、その部分に使う材料の選び方つくり方を考えていくことによって表現を深めることができる。発泡スチロールを

切ったり削ったり積み重ねたりして形をつくる他に、発泡スチロールに他の白い材料を貼ったり巻いたり、突き刺さしたりして想いを広げながら表現を展開していくのである。

また、発泡スチロールは柔らかな材料ではあるが、厚みのある塊になるにつれて、切断や貼り合わせには、適切な用具とその扱い方の問題が出てくる。本単元では、様々な用具に出会い、それらを試す中で、自分の場合に合った方法で対処できるようにしたい。

したがって、本単元の基礎基本は次のようになる。

<感じたり考えたりする力の面>

・つくりたい「人」のイメージをもとに、各部分の形や様子を考えて頭部を表すことができる。

<つくる力の面>

・用具を選んで、発泡スチロールを想いに合わせて切ったり接合したりできる。

これらの基礎基本が培われることによって、今後の表現活動において想いの実現に必要な材料として発泡スチロールを選ぶことや、それを適切な方法で成形できることにつながっていくと考える。

単元計画（総時数 8時間）

主な活動と内容	学びを広げ深めるために
1 ホワイト島の住人を考え 話し合う 人柄 職業 特技 年齢 容ぼう 髪型 他	
2 作例をもとに発泡スチロールの表現の可能性を話し合う 積む 立てる 穴をあける 切り裂く 型押し ものを刺す 用具と他の材料について	①
↓	
材料の特徴を生かしてホワイト島の〇〇さんをつくろう	
3 制作する	②③
もとになる形 (土台) 目 鼻 唇びる 歯 まゆげ まつげ ひげ めがね 耳飾り 帽子 髪 その他	
4 裏面どうしを張り合わせて吊る ・作品カードを取り付ける ・裏面を黒く塗る（アクリル絵の具） ・貼り合わせて展示	④

学びを広げ深めるために

① 発泡スチロールにおける おもしろい表現の可能性を探る場を設定する

発泡スチロールは紙のように板のように使え、立体的に厚みのある表現ができ、それは子どもにとって初めての出会いである。作例を見せることによって、題材の楽しさを実感できるであろう。また、材料の使い方の具体を見たり話したり、様々な珍しい用具に接することで、この学習にかかわる意欲を高められるであろう。  
→自分の活動を見つけ出す姿

② 切ったり削ったりする用具を様々に使えるようにする

発泡スチロールは柔らかな材質であるが、場合によって子どもによってカッターだけでは切りにくいことがある。そこで数種類の切ったり削ったりする用具を出しておき、場合に合った・自分に合った用具を選べるようにする。もちろん、それらの安全で適切な使い方を教え、見回りながらの指導も行なう。また、一人一人の表現上の必要に対応する材料として数種のものを用意したい。  
→想いに合った表現のために用具や材料を求める姿

③ 互いに表し方やつくり方を参考にする場を設定する

自分の表したいことのためにそれに合った表し方を探し展開する。従って、制作中には一人一人がそれぞれに材料の生かし方や形のつくり方を考えて、たくさんのアイデアが生まれている。これらの数々のアイデアを途中で鑑賞し合うことは、互いに見方考え方を広げることになる。全体の進捗を見計らって、時に応じて相互鑑賞の場を設定したい。  
→自分の表現を探究する姿

④ 作品どうし裏面を合わせ 天井から吊して飾って展示する

見る楽しさを高めるために天井から吊して展示する。ゆらゆら揺れる顔で楽しい空間ができ、多くの鑑賞者を集めることもできる。学年では、材料の使い方や形のつくり方を観点に鑑賞するようにし、様々な「自分らしい表現」ができたことを楽しませたい。  
→自分らしい表現のよさを確認する姿

4 本時の学習 (3 / 8時)

ねらい ○○さんに合った部分の想いを広げながら その形と材料の特徴を生かしたつくり方を考えて表す

本時の展開

主 な 活 動 と 内 容	教 師 の 働 き かけ
<p>1 はじめの課題を明確にする 何からつくるか ・目をつくる ・鼻をつくる どのようにつくるか ・板を形に切って貼る</p>	<p>つくり方が固定化せず 追究の楽しさもわかるように 一つの部分の表し 方例を数種類提示する</p>
<p>部分のつくり方をよく考えてつくろう</p>	
<p>2 様々な部分を制作する</p>	
<p>つくる部分 → 形 → つくり方 (材料 → どのように)</p>	
<p>← …考える ← …手を働かせて つくる</p>	<p>つくり方の見方考え方が 広がるように 全員の作 品を見る場を設定する</p>
<p>実現</p>	<p>用具</p>
<p>3 本時の制作を振り返り次時の課題を持つ</p>	

# 4の3 図画工作科学学習指導案

第1日 1限 図工室  
授業者 小西裕一

## 1 単元名 虫がすんでいます

- 2 目標 ・飾る場所をもとに材料の特徴を考えて使い 想いに合った虫を表すことができる  
・材料に合った切断の方法や 接合接着の方法を適切に行うことができる

## 3 指導にあたって

### 本題材の基礎・基本について

本題材は、身近にあるペットボトルとアルミ線や吸盤を利用して想像上の虫をつくり、部屋や廊下の窓ガラスなどにくっつけて楽しもうというものである。主に透明材料を用いるため、光が当たるとセロファンやステンドグラスのような効果が期待できる。そこで、ふだん何気なく通っている廊下や教室の窓を美しい虫やユニークな虫で飾ることによって、日常生活を作品で飾るよさを感じられるであろう。

また、本題材では様々な材料や描材を使う。特に、透過光による色の美しさや光の反射を積極的に活用するにあたって、子どもは使う材料に大いに興味を持つと考えられる。そこで、材料の特徴を考えて自分の表現に合ったものを選ぶとともに、その材料の切断や接合接着の方法を適切に行えるようにしたいと考えている。具体的にはペットボトルの切断や接合、アルミ線の切り方曲げ方、各種透明材料や描材、接着剤の選択や使用法などである。そこで、本題材における基礎基本を次のようにとらえた。

### <つくる力の面>

- ・必要に応じて用具を使い分けながらペットボトルやアルミ線などの材料を切断したり 接合したりすることができる

### <感じたり考えたりする力の面>

- ・形や色などにおいて 材料の特徴を生かして 自分のつくりたいものに合った表し方ができる

ペットボトルは身近な材料であり、これまでも工作材料として使った経験はあるが、本格的に切ったり接合したりという活動は初めてである。はさみやキリによる切断や接合、特にホットボンドによる接合などを経験させたい。アルミ線についてもすでに経験しているが、その可塑性を生かした表現と、切る・曲げるなどの技術の習熟を目指したい。また、光を意識した表現のために色セロファンやOHPシートTPペンなどの透過光を利用する材料や、アルミテープなどの反射光を利用する材料の生かし方について工夫を促したいと考えている。

### 単元計画 (総時数 8時間)

主な活動と内容	学びを広げ深めるために
1 作例から胴体と脚の付け方を理解し 表現の可能性や生活での作品の生かし方を話し合う	①
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">家や学校をきれいなおもしろい虫たちでかざろう</div>	
2 自分のつくりたい虫の特徴を考える	②③
3 胴体部となるペットボトルにアルミ線を取り付けて 脚部をつくる	④
<ul style="list-style-type: none"> <li>・脚部の取り付け方を考える (巻く 穴をあけて通すなど)</li> <li>・吸盤の利用の仕方を考える (付ける位置 方法など)</li> </ul>	
4 材料の特徴を生かして体の様々な部分をつくったり 油性ペンや透明シートで模様をつけたりする	⑤⑥
<ul style="list-style-type: none"> <li>・透明パーツの使い方 描材の選択など工夫しながらつくる</li> </ul>	
5 作品が生きているかのように飾り方を工夫して 窓や照明に取り付けて鑑賞する	⑦
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ミニ鑑賞会を開き お互いのよさ美しさを味わいながら感想などを書き合う</li> </ul>	

学びを広げ深めるために

① 題材のよさや楽しさを実感できる場を設定する

作例をもとに自分たちの生活の場を飾るよさを話し合ったり、自分のつくりたい虫の特徴を考えたりする活動を通して、つくってみたい、飾ってみたいという動機を起すと考えられる。窓ガラスや照明装置に取り付けられれば、作品をオブジェとして生かせるとともに、作ったものを飾って楽しむことのよさを感じられるであろう。また、自分の作ろうとする虫のプロフィールを想像することは、自分の表現への見通しを立てるうえで大きな楽しみとなると考えられる。

→自分の表現の方向性を定める姿

② 思い通りの表し方に対応できる学習環境をつくる

本題材ではペットボトルなどの透明材料や光を反射する材料、描材や接着剤などの用具は子どもが自分の身の回りから使いたいものを探してくるようになっていく。しかし、制作途中で思いついた考えのために、それまで予定していなかった用具・材料が必要になったときなどには適切な支援を行って表現を実行できるようにしたい。そこでは、用具の貸し出しだけでなく、個々が使っている用具の安全で適切な使い方についても助言を行っていきたいと考えている。

→自分の想いや気づきを実践する姿

③ 自分の表現をふりかえる場と友だちの表現を見る場を設定する

制作の途中段階で、自分の表したいものになっているかどうかふりかえる場をもつことで、次の活動へのめあてをもったり、表現への意欲を高めたりすることが期待される。また、友だちの行っている表現を参考にしたり、意見を聞いたり、実物や資料などからヒントを得たりして自分の作品に生かせるようにしたい。

→自分の表現を探求する姿

④ 一人ひとりの自分らしさを楽しむ場を設定する

できあがった作品を教室や廊下の窓に取り付けて、個々の作品のもつ美しさやおもしろさを味わって楽しめるようにしたいと考えている。また、こうしてつくった楽しい空間が全校に向けての発信の場になることで、つくった達成感が得られるであろう。

→自分らしい表現のよさを確認する姿

4 本時の学習 (4/8時)

ねらい 材料の特徴を生かして 形や色を工夫しながら 虫の体の様々な部分をつくる  
本時の展開

主 な 活 動 と 内 容	教 師 の 働 き かけ
<p>1 本時の課題を確認する 〈何を使ってどうするか・・・〉</p> <p>形や色を考えながら いろいろな部分をつくろう</p> <p>2 材料の特徴を生かして形や色が 自分の思い通りに なっているかどうか 確かめながらつくる</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 25%;"> <p><b>形について</b></p> <p>つくる部分</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・眼</li> <li>・羽</li> <li>・触覚</li> <li>・その他</li> </ul> <p>材料</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・キャップ</li> <li>・ふた</li> <li>・TPシート</li> <li>・針金</li> <li>・その他</li> </ul> </div> <div style="width: 25%;"> <p><b>色について</b></p> <p>感じ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・楽しそう</li> <li>・強そう</li> <li>・速そう</li> <li>・重そう</li> <li>・明るい</li> <li>・しぶい</li> </ul> <p>材料</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・カッティングシート やセロファン</li> <li>・油性ペンやTPペン</li> <li>・スパンコールやビーズ</li> <li>・アルミテープやビニル テープ</li> <li>・折り紙など</li> </ul> </div> <div style="width: 25%;"> <p>つけ方</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・貼る</li> <li>・巻く</li> <li>・塗る</li> <li>・胴体内に 入れる など</li> </ul> </div> </div> <p>切断について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・はさみ・カッター</li> <li>・キリ・ノコギリ</li> <li>・その他</li> </ul> <p>接合について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・接着剤・ホットボンド</li> <li>・セロハンテープ</li> <li>・ビニルテープ など</li> </ul> <p>3 本時の活動をふりかえって 次時の見通しをもつ</p>	<p>自分のつくりたいものを確認する場を設け 本時の活動の見通しが持てるようにする</p> <p>制作中に思いついて必要になった用具を提供したり 技術的な問題で困っている子に 適切な助言を行ったりする</p>